

北海道と本州のガン類越冬状況

神山和夫（バードリサーチ）

牛山克己（宮島沼水鳥・湿地センター）

本州主要越冬地の状況（モニタリングサイト 1000 2004～2021 年度の記録より）

マガン：宮城県では増加が続き、2004 年度の 10 万羽から現在では 20 万羽近くにまで増えた。北陸は数が安定していたが 2010 年代後半から増え始め、現在は 1 万羽（同時カウントでないため重複あり）くらいになっている。

亜種オオヒシクイ：2004 年度以降では、宮城県も北陸も個体数の年変動はあるが、明確な増減傾向は見られない。一方、秋田県の八郎潟で個体数の増加が続いており、現在は八郎潟が最大の越冬地になっている。

ハクガン：秋田、宮城、北陸で増加傾向にある。大半は秋田で越冬しており、2021 年度は 2 千羽を超えた。

シジュウカラガン：秋田、宮城、北陸ともに増加傾向にある。宮城と秋田が主要越冬地で北陸は数十羽程度である。近年は宮城県か秋田県の八郎潟かどちらかに多くが偏る傾向が見られる。

北海道の渡り状況（北海道ガン類一斉調査 2015 年春～の記録より）

マガン：石狩低地帯を中心に、十勝やサロベツなどに分布する。春は 3 月に勇払～石狩川流域と十勝に飛来し、4 月に道北・サロベツへと北上する。秋、9 月はほとんどが石狩川流域の宮島沼に分布。10 月になると道北・里別と十勝に飛来する。

ヒシクイ：亜種オオヒシクイはサロベツと十勝に多く、石狩川流域や釧路にも分布。亜種ヒシクイはオホーツクに集中し、サロベツにも小集団が見られる。

シジュウカラガン・ハクガン：主に十勝に飛来する。